

第一分科会（魅力ある学校経営）記録

提言テーマ 「組織力の向上を図る学校経営の在り方」

「地域との連携・協働を図る学校運営」

～「地域とともにある学校づくり」を目指して～

提言者[神崎市立千代田西部小学校 横地千恵子] [佐賀市立諸富中学校 下川 登志雄]

司会者[佐賀市立川上小学校 村山 輝美]

記録者[神崎市立千代田中部小学校 坂口 博之] [佐賀市立芙蓉中学校 杠 幸世]

【研究協議題】

- ・教職員の負担感を少なく組織力を向上させるための持続可能な組織力向上の手立てについて
- ・地域との連携・協働の工夫や課題、手立てについて

1 質疑応答

Q1 自主研修会は年間に何回行われているのか。また、こういった内容が好評だったのか。

A1 昨年度から自主研修会を始めた。毎月第4金曜日の放課後の時間に行っている。メンターである同学年グループの教員からしたいという申し出があって始めた。最初は、初任者の悩みを聞く会だった。宿題の丸つけ等、普通にやっていることができないということについて一人でため込まず話ができるのはよい。現在は、初任者からの質問事項や ICT、体ほぐし、学級経営等をテーマにして、得意な教員が講師となって行っている。

Q2 コミュニティースクールや部活動の実践をしたことで、子どもたちがどのように成長したのか、変容したのか、また、学校生活や授業の中でその変容が生かされているか具体的に教えてほしい。

A2 生徒指導上問題があったが、コミュニティースクールになり地域の協力をえられるようになり、子どもたちが落ち着いてきた。学習に向かう子どもも増えてきた。地域の方に「宿題をしているか」「あいさつをしているか」等、よく声掛けをしてもらい、ほめてもらえることで、町民体育大会等、ボランティア活動についてもよく参加するようになった。本校の体育大会より、よく動いている。子どもたちのコミュニケーション能力も上がってきた。単語ではなく文章として言えるようになってきた。

Q3 中学校区でのコミュニティースクールを昨年度より立ち上げているが、学校が状況を報告したことに意見を言う形であり、何かを一緒にやっというとなっていないことが課題。連携ビジョンにアイデアをもらった。会をもつときの留意点や協議題を教えてほしい。

A3 町内校長会で議題を育てて、その議題をコーディネーターと意見交換をしながら、それぞれの組織に事前に提示しておく、答えをもって会に参加してくれる。コーディネーターに学校と地域との潤滑油としての働きをしてもらっている。

2 グループ協議報告・まとめ

(1) Aグループより

- ・組織力の向上の課題として、若手育成とメンタルへの配慮の難しさや年齢構成の二極化、児

童数の差による負担感の差、教頭の負担増加、等が挙げられる。対応として、校内研修でメンタリングやミニ研修会の実施、持ち授業時間の軽減、各分野のリーダを決めて任せること等を行っている。日常のコミュニケーションを大事にして、一人一人に応じた指導・サポートを心掛けている。

(2) Bグループより

- ・ 組織力の向上については、学校教育目標を職員や児童と共有していくことを大切にしている。OJTは難しいが、児童下校後にフランクに情報交換をしている。
- ・ 地域連携については、学校規模によって、地域とのかかわりが違う。小規模校は、多くの地域の力を借りている。その時、地域の要望をどのようにつないでいくのかは、学校の出し方による。大規模校は、いろいろな会をつないでいく難しさがあるが、地域と根付いた活動がなされている。学校の要望を、地域が受けてくれて、子どもたちが地域に愛着をもつ取組みにつながる。

(3) Cグループより

- ・ 組織力の向上、若手育成のためにも自主研修会は必要である。ただ、どのようにして時間を見出すのが課題である。持続可能にするには、計画的にしなければならない。各校や校区でそろえて校時の見直しを行っているが、限界や縛りがある。地域は協力的でありがたいが、振り回されて断れないというところもあり、連携の難しさを感じる。

(4) Dグループより

- ・ 組織力向上については、複数クラスある学年は授業を交換し、学年で子どもを見る。大規模校では、校務分掌で誰を組織のトップに置くかが重要で、力があり信頼できる人を学年主任にする。校長は主任と週に1回のヒアリングを行い、そこで考えを伝える。また、授業の見せ合いを学期に1回行い、参観後に感想を付箋に書いて伝え合っている。

(5) Eグループより

- ・ 組織力向上について、30歳前後の職員が多いため、若手の育成が急務である。ベテラン教員の電話対応を隣で学ばせたり、主担当が代わっても引き継ぐことができるよう、避難訓練などの運営をベテランと組ませたりしている。ミドルリーダー（子育て世代）をどう育てるかが課題。
- ・ 各種委員会や各部会について、負担感を軽減しつつ内容を充実させるため、放課後の会議をできるだけ減らして時間割内に取り組む工夫をしている。

(6) Fグループより

- ・ 連携するためには、校長の学校目標が大切。学校目標をとにかく知ってもらう。地域の方、保護者にも知ってもらうことは非常に大切。伝統の継承など地域との連携はできている。あくまでも、子どもたちが主役、子どもたちが中心なので、自分のことを決めることができる子どもたちを育てるために、子どものやる気を引き出す仕掛けをしていく必要である。

(7) まとめ

これといった答えが出るという話にはならないと思うが、先生方と話したことで、自分の考えが整理されたり、ヒントがもらえたりということがあると思う。ぜひ学校に持ち帰っていただけたらと思う。